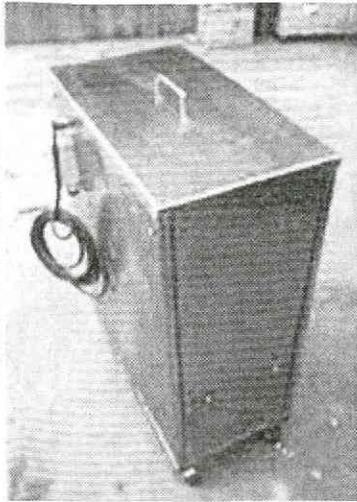


# 高濃度臭気も一瞬で分解

## 食品工場で低コスト脱臭



移動式小型プラズマ脱臭装置

### ごみ焼却や堆肥施設にも プラズマフロンティア

プラズマフロンティア（岡山市北区、湯川隆社長、☎086・286・9591）は、低コストで脱臭が可能な方式として、昨年12月、関西地区の調味料製造工場に独自の「プラズマ脱臭装置」を民間施設ではじめて設置した。

同装置は、プラズマを活用した脱臭方法を採用したもの。一般的にプラズマを使うと脱臭効果は高くなるが、イニシャルコストも跳ね上がることから民間施設で導入することは困難だった。同装置の開発者は、プ

ラズマ処理と取り組み、7年がかりで、装置の小型化に成功。従来の薬品洗浄法や直接燃焼法に替わる省エネ装置として効果を高めた。イニシャルコストは、従来タイプと比較

ラズマ処理と取り組み、7年がかりで、装置の小型化に成功。従来の薬品洗浄法や直接燃焼法に替わる省エネ装置として効果を高めた。イニシャルコストは、従来タイプと比較

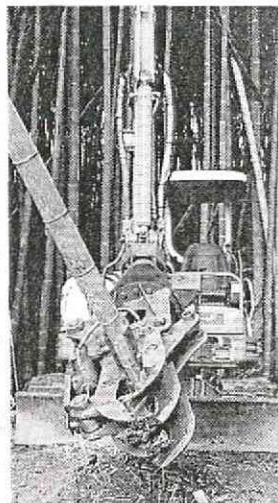
して低く抑えた結果、2、3年の償却ですむことが判明した。通常のオゾン脱臭と比べ、酸化力が強く、OHラジカルを発生させ、高濃度臭気でも一瞬で分解消臭する仕組み。同装置を設置した食品工場では、既設の酸アルカリ洗浄装置を撤

去した結果、薬品、活性炭、水処理等の費用を大幅に削減でき、少ない電気代（2・4キロワット）で効果を上げた。湯川社長は「今後、工場設備だけでなく、さらに小型化に成功したのであれば、NEW環境展に移動式テスト機を出展して、介護施設、製造現場への販売のため、全国に販売代理店を募集すること」を訴えた。

# 竹切り専用アタッチメント

## 安全性高くコスト大幅減

松田組



「竹キング」を使った竹の伐採

建設業の松田組（福岡県みやま市、松田耕志社長、☎0944・22・5801）は、竹切り専用アタッチメント「竹キング」の販売を強化する。建設重機の小型バックホウに装着することで、竹の切断・引き出し・小割り・集積の4役を可能とするもの。農業従事者の高齢化や荒廃竹林の拡大が進む一方、木

質バイオマスボイラーのチップ需要が伸びてきている中、安全性や効率の高い竹林伐採・集積を実現。大幅にコストを削減できるとして提案を行っていく。小型バックホウ（適用1トクラス）に装着すれば、10メートル以上ある孟宗竹をつかみながら切断・引き出せる。伐採後は、必要な長さに小割りし、6〜7本に

まとめて集積する。つかんだまま360度回転できるなど高い操作性を持ち、作業効率を向上。従来、数人で取り掛かる作業を1台でこなすため、コストの大幅削減につながるという。製品寸法は、全長1170×全幅700センチで、重量は370キロ。最大開口幅は、900センチとなっている。同機の利点について、同社の松田社長は、「人力作業で竹林伐採・集積を行うと、コストが1本当たり約300円掛かる。当社の実績によると、竹の種類、密度、勾配により異なるが、竹キング1台で

TOHTO（東京・品川、野澤重雄社長、☎03・3768・2371）が取り扱うフラットフェイスタイプの油圧カップリングが、ビル解体用重機などに採用され注目を集

められている。解体の現場では硬いコンクリートを1日中小割するといった高い耐久性が求められる。同社が販売する油圧カップリングは、耐久性に優れているだけでなくISO1

ルを媒体に取技術を案鋼内に試験の実証を行うことで電力としてこのなかの未利用し、200の発電に適中温廃熱回証する。実は約100

TOHTO（東京・品川、野澤重雄社長、☎03・3768・2371）が取り扱うフラットフェイスタイプの油圧カップリングが、ビル解体用重機などに採用され注目を集

められている。解体の現場では硬いコンクリートを1日中小割するといった高い耐久性が求められる。同社が販売する油圧カップリングは、耐久性に優れているだけでなくISO1

るだけでなくISO1

TOHTO（東京・品川、野澤重雄社長、☎03・3768・2371）が取り扱うフラットフェイスタイプの油圧カップリングが、ビル解体用重機などに採用され注目を集

るだけでなくISO1

### TOHTO 耐久性の高いフラットフェイス 各種油圧カップリング

6028規 油漏れによる染を防ぎ環 減できる。 日本では

2013年5月6日 週間 循環経済新聞